



神奈川県 の 率 先 実 行 の 取 組

神奈川県では、平成12年度に、国際規格である「ISO14001」に基づいた環境マネジメントシステムの運用を県機関の一部で開始しました。その後、システムの対象範囲を拡大し、平成19年度には警察も含めるなど、現在ではすべての県機関を対象とした環境マネジメントシステムの運用を行っています。

ISO14001は、環境に配慮した取組を継続的に改善する仕組みになっていることが特徴です。知事が定めた環境方針に基づき、目的・目標を定め、これらを達成するため、行動計画「環境マネジメントプログラム」を作成しており、このプログラムをもとに、日常活動や業務を環境に配慮しながら進め、その進捗状況を定期的に点検し、見直しています。

この仕組み（PDCAサイクル）に基づき毎年取組を進めることにより、継続的に日常活動や業務が改善され、環境に配慮した活動になっていきます。

なお、平成23年10月1日から、審査登録機関による認証登録に代えて、ISO14001の規格に適合していることを自ら宣言する「自己適合宣言」のもとで環境マネジメントシステムを運用しています。

ここでは、平成26年度における各プログラムの取組状況（進捗状況）を報告します。

1 グリーン購入の拡大と廃棄物の削減に向けた率先実行プログラム

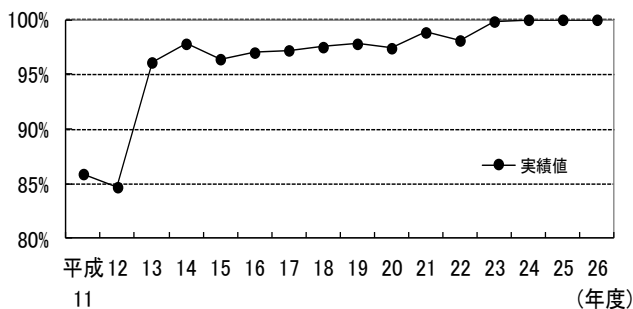
このプログラムは、物品を購入して、事務事業活動を行い、廃棄物を排出するという一連の流れの中で環境配慮を行い、グリーン購入、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を進めています。

▲表3-1 平成26年度目標と実績

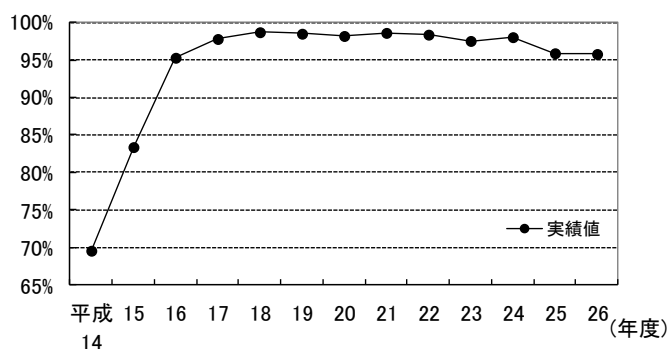
取組項目	目標	実績
本庁の経常物品のグリーン購入率の向上	☆	100.0%
出先機関等のグリーン購入率の向上	☆	95.8%
警察のグリーン購入率の向上	☆	98.8%
本庁の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	95.7%
出先機関等の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	95.8%
警察の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	(対象なし)
本庁の廃棄物発生量の削減（廃棄物発生量を把握）	☆	461t
本庁のリサイクル率の向上	☆	91.1%
出先機関等の廃棄物発生量の削減（廃棄物発生量を把握）	☆	4,148t
出先機関等のリサイクル率の向上	58.0%	57.3%
警察の廃棄物発生量の削減（廃棄物発生量を把握）	1,500t	1,454t
警察のリサイクル率の向上	50.0%	56.3%
本庁のコピー用紙使用量の削減（使用量を把握）	4,900万枚	5,952万枚
出先機関等のコピー用紙使用量の削減（使用量を把握）	☆	21,608万枚
警察のコピー用紙使用量の削減（使用量を把握）	☆	11,433万枚

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

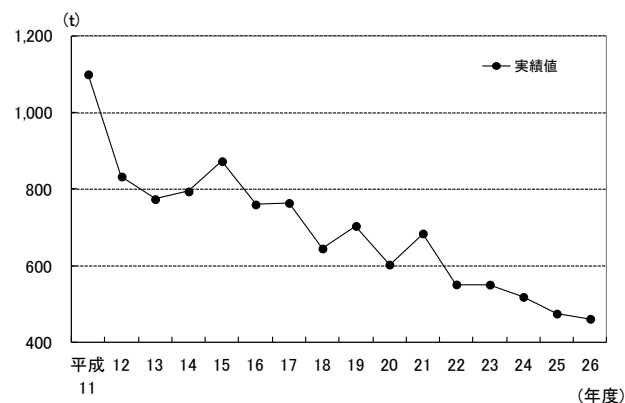
▲図3-1 本庁の経常物品のグリーン購入率の推移



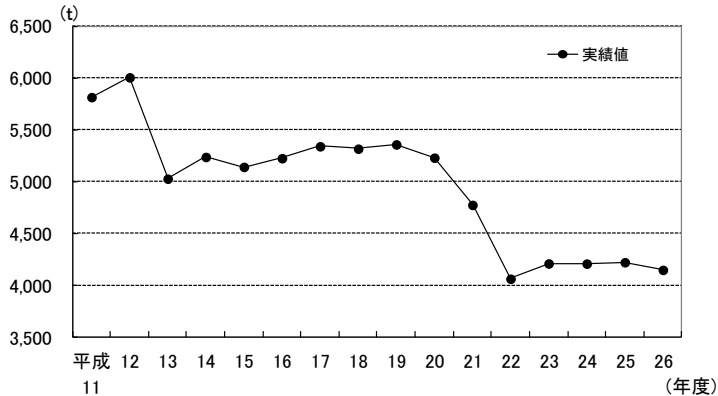
▲図3-2 出先機関等のグリーン購入率の推移



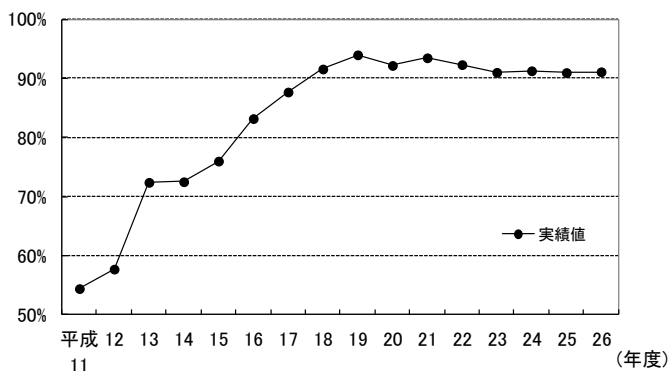
▲図3-3 本庁の廃棄物発生量の推移



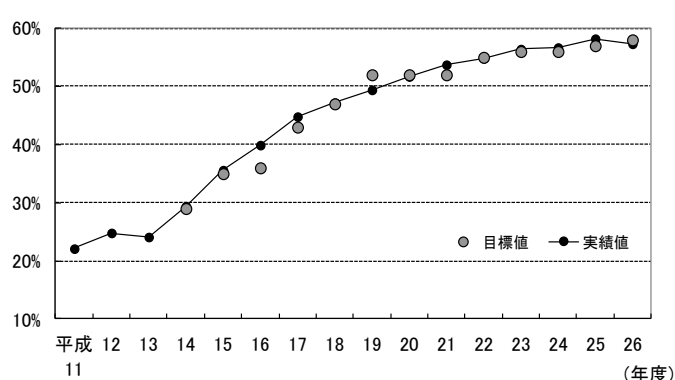
▲図3-4 出先機関等の廃棄物発生量の推移



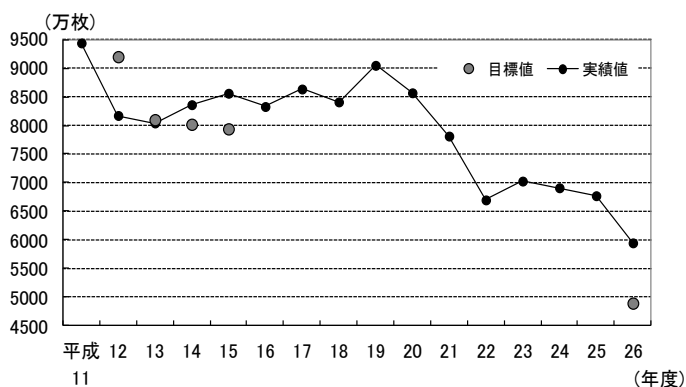
▲図3-5 本庁のリサイクル率の推移



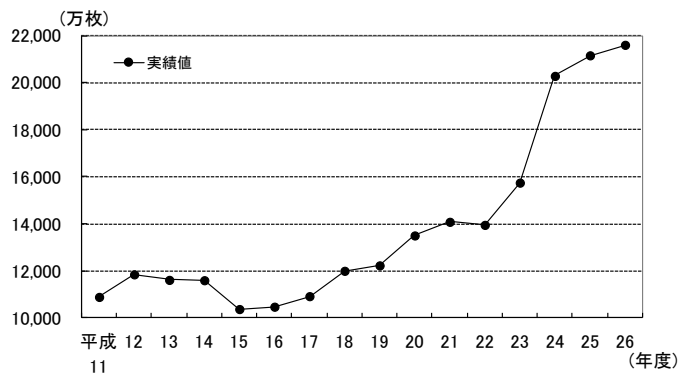
▲図3-6 出先機関等のリサイクル率の推移



▲図3-7 本庁のコピー用紙使用量の推移



▲図3-8 出先機関等のコピー用紙使用量の推移※



※平成23年度まで一部の所属において授業等で使用した更紙(ざらし)の枚数を含めず集計していたところを、平成24年度から更紙の枚数も含めて集計することに統一したため、平成24年度実績から増加した。

2 地球温暖化防止に向けた率先実行プログラム

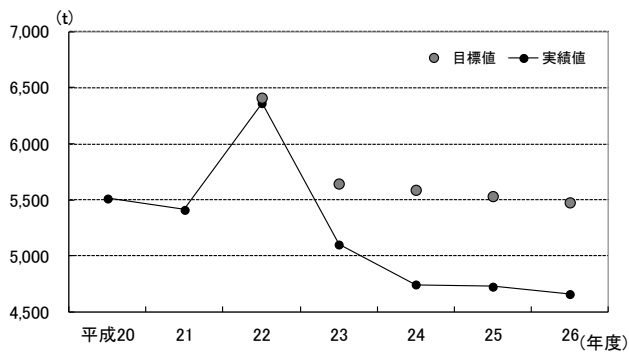
このプログラムは、温室効果ガス総排出量に大きく関与する各庁舎のエネルギー使用量の削減、浄水場のエネルギー使用量の削減、道路照明への省エネルギー型照明の導入などを進めています。

▲表3-2 平成 26 年度目標と実績

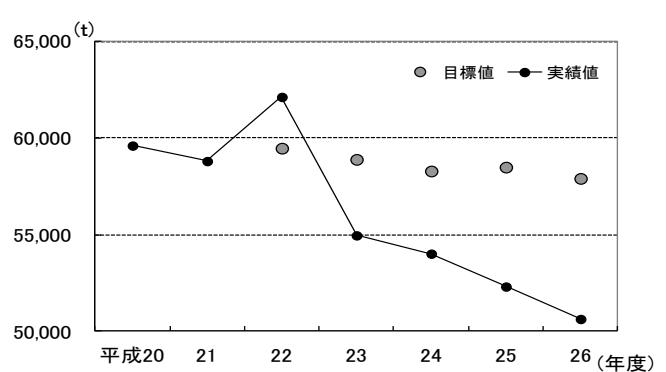
取組項目	目標	実績
本庁の温室効果ガス排出量の削減	5,478t	4,660t
出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	57,915t	50,639t
寒川浄水場 送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	131t/百万m ³	125t/百万m ³
谷ヶ原浄水場 送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	126t/百万m ³	121t/百万m ³
道路照明1本当たりの温室効果ガス排出量の削減	360kg/年・本	345kg/年・本
警察の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	28,120t以下	23,907t
信号機のLED化の推進	37.3%以上	38.1%
本庁の水道使用量の削減	☆	5.5 万m ³
出先機関等の水道使用量の削減	☆	136.7 万m ³
警察の水道使用量の削減	62.5 万m ³ 以下	56.1 万m ³

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

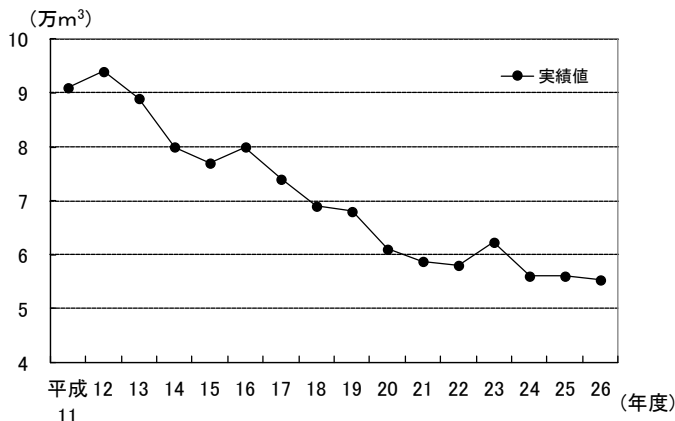
▲図3-9 本庁の温室効果ガス排出量の推移



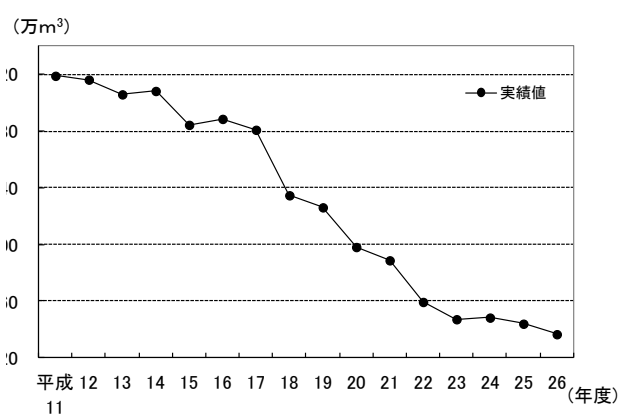
▲図3-10 出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量の推移



▲図3-11 本庁の水道使用量の推移



▲図3-12 出先機関等の庁舎の水道使用量の推移



3 環境配慮型、環境創造型公共工事の推進プログラム

このプログラムは、公共工事の構想・計画段階、実施設計・積算段階、発注段階、工事段階、検査段階の各段階における環境配慮を進めるため、仕様書や現場説明書における環境配慮項目の拡大、工事の各段階におけるチェックリストの作成や見直し等を行い、環境配慮型、環境創造型工事を進めています。

また、グリーン資材調達の推進やリサイクル率の向上に努めており、主要な資材等については目標を定め実績把握を行っています。

▲表3-3 平成26年度目標と実績

取組項目	目標	実績
再生砕石の利用率の向上	☆	84.3%
再生アスファルト合材の利用率の向上	☆	61.8%
コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.6%
アスファルト・コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.6%
建設発生木材のリサイクル率の向上	☆	98.9%

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

4 環境基本計画

神奈川県 の 環境分野における基本的な計画である環境基本計画に位置づけているプロジェクトを進めています。また、これらの進捗状況について、環境審議会や県民による点検に加え、内部監査による点検などを実施し、より効果的に進めています。



「神奈川県環境基本計画－将来につなぐ良好な環境の保全と創造－」

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f1023/>

5 環境に視点を置いた本来業務の改善プログラム

このプログラムは、環境に視点を置いた本来業務の改善に向けて、各局一つ以上のプログラムを作成し、実施しています。

平成 13 年度からは、各所属の取組の中から優れた事例を「クローズアップ優秀事例」として ISO 14001 の内部監査員が評価して公表しています。

○平成 26 年度 クローズアップ優秀事例(抜粋)

○暖房用ボイラーの燃料を、A 重油からバイオ燃料（バイオ U.S.S-OIL：平成 24 年度かながわりサイクル認定製品）に変更したことにより、暖房用ボイラーに係る温室効果ガス排出量を 6 割弱削減し、庁舎全体の年間排出量も 1 割強削減した。（東部漁港事務所）

○生徒を中心とした ISO に取組む委員会を運営することにより、年間を通して節電対策等の活動に計画的かつ自発的に取組み、PDCA サイクルによる改善を行っている。

また、2 台の冷温水発生機を同時に起動させないことで使用電力のピークカットを行っているほか、お盆の時期に教員及び生徒が登校しない期間を設け、電気及びガスの使用量を削減している。（よこはま看護専門学校）

○平成 16 年から「けやき林の林床緑化計画」に取組むことを内外に掲示しながら、けやき林の保全に取り組んできた。

また、平成 23 年度には「SFP（サイエンス・フレンドリー・プログラム）」を立案し、近隣の小中学校や東京農業大学等と連携しながら、環境教育や環境学習に取り組んでいる。（上溝南高等学校）



「神奈川のISO(環境マネジメントシステム)」

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f246/>